

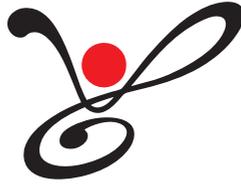


東京フィルハーモニー交響楽団
Tokyo Philharmonic Orchestra



2021
11

Chie Ichi.



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きとともに広がる<新しい景色>を
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・スポンサー

SONY

Rakuten

マルハニ

LOTTE

JP BANK ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。



令和3年度(第76回)文化庁芸術祭参加公演(11/1)

第960回サントリー定期シリーズ

11.1 (月)19:00開演 サントリーホール 大ホール

第961回オーチャード定期演奏会

11.3 (水・祝)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第142回東京オペラシティ定期シリーズ

11.4 (木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

指揮: アンドレア・バッティストーニ

フルート: トンマーズ・ベンチョリーニ*

コンサートマスター: 三浦章宏

バッティストーニ:

フルート協奏曲『快樂の園』

～ボスの絵画作品によせて(2019)[日本初演]* (約35分)

- I. 天地創造
- II. エデンの園
- III. 地獄ーカデンツァ
- IV. 庭

— 休憩(約15分) —

チャイコフスキー:

交響曲第5番 木短調 Op. 64 (約45分)

- I. アンダンテ・アレグロ・コン・アニマ
- II. アンダンテ・カンタービレ、コン・アルクーナ・リチェンツァ
- III. ワルツ: アレグロ・モデラート
- IV. フィナーレ: アンダンテ・マエストーソーアレグロ・ヴィヴァーチェ

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: Bunkamura (11/3)

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せず
ご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場、再入場・途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお
席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。

『ナブッコ』、『リゴレット』、『蝶々夫人』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』のほか、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015年）、『イリス（あやめ）』（2016年）、『メフィストフェレ』（2018年）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を得た。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDのリリースを継続している。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アリーナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリンスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニのほくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。

2021年、東京フィルとの録音『ドヴォルザーク新世界&伊福部作品』欧米盤が欧州の権威ある賞の一つ「OPUS KLASSIK 2021」交響曲部門（20-21世紀）を受賞した。

Website <http://www.andreabattistoni.it/>Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

フルート

トママーゾ・ベンチヨリーニ

Tommaso Benciolini, flute



1991年ボローニャ(イタリア)生まれ。12歳でフルートを始め、18歳でエヴァリスト・ダッラーバコ音楽院(ヴェローナ)を一等賞を得て卒業するとともに、イタリア全土の優秀な新卒音楽大学卒業生を対象とするコンクールで優勝した。2017年に「ニューヨーク・レスピーギ賞」を受賞し、翌年には名門カーネギーホールでニューヨーク室内管弦楽団の注目ソリストとしてデビュー。

これまでにベルリンフィルハーモニー、カーネギーホール(ニューヨーク)、スメタナホール(プラハ)、モーツァルテウム大ホール(ザルツブルク)、ノーヴァヤ・オペラ・モスクワ劇場、北京大学ホール、広州オペラハウス、サル・コルトー(パリ)、フェニーチェ歌劇場(ヴェニス)、コンセルトヘボウ大ホール(アムステルダム)といった多くの世界的ホールで演奏。ベルリン交響楽団、北チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク室内管弦楽団、ウラル国立ムソルグスキー音楽院交響楽団(エカテリンブルク)、チューリンゲン・フィルハーモニー管弦楽団などと共演した。

2021年、ソニー・クラシカルよりデビューCD「L'Appassionata」をリリース。

楽
曲
紹
介

解説=野本由紀夫

今月の定期～バッティストーニの作曲について

11/1

今月3回行われる東京フィルの定期演奏会の目玉は、なんとといっても、首席指揮者アンドレア・バッティストーニの自作自演ではないだろうか。

11/3

11/4

指揮者としてあまりに国際的に活躍しているために、彼が故郷ヴェローナの音楽院をそもそも「チェロ専攻」で卒業したことを忘れがちかもしれない。2006年に卒業して、同音楽院のオーケストラで首席チェリストを務めていたが、指揮と作曲の勉強は2004年からは始めている。2008年に指揮者デビューを果たすと、早くも2012年、24歳のときに、ミラノのスカラ座の舞台を踏んでいる。ご存じのとおり、東京フィル定期への初登場は2013年で、2016年に首席指揮者に就任した。

一方、作曲のほうだが、指揮者の余興だと思ったら大間違いである。彼の作品リストを見ると、21曲載っている。2011年に書いた舞台作品を皮切りに、協奏曲が6曲（うち2曲の初演者に、本日のフルート奏者トンマーズ・ベンチョリーニが参加している）、アンサンブル作品が3曲、室内楽曲が4曲、独奏曲が2曲（今年ベンチョリーニのために作曲した組曲を含む）、そして管弦楽曲が5曲である。

そのオーケストラ作品の最初のものが、狂詩曲『エラン・ヴィタル（生命の飛躍）』（2016）である。これは2017年9月3日の第73回「休日の午後のコンサート」において、バッティストーニの指揮、東京フィルの演奏で日本初演されたので、実際に聴かれた方も多いただろう（東京オペラシティコンサートホール）。フランスの哲学者、アンリ・ベルクソンの哲学に触発されて作曲されただけに、冒頭は難解な音楽が始まったかのように聞こえるが、後半部分になると変拍子の嵐ではあるが、ドラムセットも加わってノリの良いロックのような音楽が展開されていた（バーンスタインの影響もあるかもしれない）。なお、同曲は本人指揮の東京フィルの演奏を日本コロムビアの世界初録音CDで聴けるようになったし、YouTubeでもバッティストーニの指揮による世界初演を視聴することができる。

今回の定期演奏会で取り上げられるのは、フルート協奏曲『快樂の園』～ボスの絵画作品によせて（2019）で、日本初演となる。世界初演は昨年3月8日に、

本日の独奏者ベンチョリーニとデヴィッド・ロバート・コールマン指揮のベルリン交響楽団により行われている。このときは、コロナ禍のためにバツティストーニは国境を越えて臨席することができなかったそうなので、友人（委嘱者でもある）との日本での共演とも相まって、今回の自作自演はとりわけ思いの強いコンサートになるのではないだろうか。期待の定期演奏会である。

バツティストーニ フルート協奏曲『快樂の園』 ～ボスの絵画作品によせて(2019)

解説=アンドレア・バツティストーニ

フルート協奏曲『快樂の園』～ボスの絵画作品によせて(2019)は、トンマーゾ・ベンチョリーニの依頼により彼の楽器のための協奏曲を作曲したものです。トンマーゾは常に私の音楽の強力な支持者であり、理想的な演奏家でもあるので、私は彼の能力と才能に合わせた作品を作曲することで、彼の期待に応えようと最善を尽くしました。

この協奏曲は、おそらく私が今までで一番好きな絵、初期フランドル派の画家ヒエロニムス・ボスの神秘的で崇高な三連祭壇画「快樂の園」からインスピレーションを得ています。

4つの絵画(1つ目の外翼パネルは三連絵画の両側を閉じた時にしか見えません)は、別世界のような雰囲気、グロテスクな想像力、中世の象徴主義、そして野生的な色彩で私の想像力をかきたて、20世紀のフルート協奏曲と同様にロマン派の交響詩に強いルーツを持つこの作品を生み出しました。

作品は、祭壇画の閉じられた部分の主題である「**天地創造**」(第1楽章)の描写で始まり、ボス(Bosch)の名前にソロフルートの最初の4音[B(シb)-S(Es:ミb)-C(D)-H(シ)]で音楽的に言及しています。この楽章では、霧深い暗澹とした色の大地と水の中から浮かび上がるフローラを想起させます。

この緊張感は保たれたまま、祭壇作品の左パネルの絵画の主題である「**エデンの園**」(第2楽章)の描写へと途切れることなくつながって行きます。

豊かな自然とエキゾチックな鳥の鳴き声がハーブと木管楽器の旋風によって映

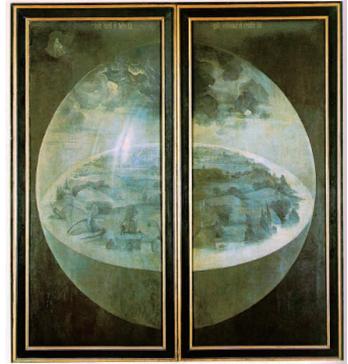


三連祭壇画『快樂の園』
ヒエロニムス・ボス(1450-1516)作

し出される一方、ソロ・フルートは、原始人類の失われた世界を描写する不規則で異質な書法で書かれています。この伴奏つきの即興的演奏は、絵画の中心にいる神の存在を象徴する神聖なコラルルによって一時的に中断され、やがて多数の鳥たちの合図や鳴き声の中に消えていきます。最後の数小節でボスのモチーフ

[B-S-C-H: シ b - ミ b - ド - シ] が再び登場し、神と芸術的創造者が再び一つの象徴的な姿で融合します。

「**地獄**」(第3楽章)は、この曲の最も象徴的なイメージである、ぞっとするような想像力と奇怪なユーモアへの歓びが渾然となった黄泉の国への恐怖を音楽的に表現しています。鐘が火事を告げるように鳴り響き、ソリストとオーケストラはグロテスクな効果の不穏なカーニバルへと駆り立てられます。弦楽器はボスの想像力が生み出した悪魔的な小動物となって這い回り、ソロ・フルートはコウモリの化け物となって金切り声をあげ、灼熱の鉄槌の一撃に続いて、ボスが地獄の亡者たちの一人の臀部に容赦なく入れ墨した音符に基づく悪魔の行



『快樂の園』の外側。両側を閉じると現われる

進曲が挑みかかります。この荒々しい楽章は慌ただしいクライマックスへと上昇し、ソロ・フルートのカデンツァはこれまでの楽章の最も重要なテーマを映し出します。

「庭」(最終楽章)は、前の楽章で喚起された緊張を和らげようとしています。

この楽章は一種のロンドのように表現されており、円環的な音楽形式の中では踊るような祝祭的なテーマによって、ボスの三連画の最も大きな画面(中央のパネル)で勝利を取めている一風変わった自由と不条理とが想起されます。実際のところ、輪舞(=ロンド)がこの絵画の核心をなしており、音楽はオーケストラや観客をこのエロティックなイメージが醸し出す気楽な愉悦へと誘っています。

終盤、盛り上がりが最高潮に達すると、踊りは消え、音楽は私たちが訪れた魅惑の世界への憧れと哀愁を感じながらゆっくりと別れを告げます。

人間の姿と未知の物語がモザイク状に描かれたこのユニークな絵画の中で、ボスの描いた人々がたっぷりと享受している自然発生的で祝福された状態を、私たちはいつか体験することができるのでしょうか。

【作曲年代】2019年 【初演】2020年3月8日、デヴィッド・ロバート・コールマン指揮ベルリン交響楽団、トンマーズ・ベンチョリーニのフルート独奏による

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、打楽器(タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、サスペンデッド・シンバル、アンヴィル、タムタム、グロックンシュピール、チューブラーベル)、ティンパニ、ハーブ、弦楽5部、独奏フルート

チャイコフスキー 交響曲第5番 木短調 Op.64

解説=野本由紀夫

交響曲第4番から10年を経て作曲された作品で、1888年、チャイコフスキー(1840-1893)が48歳のときに完成した。この間の10年は、創作力の枯渇を強く感じ、試行錯誤を繰り返していた。

チャイコフスキーは1887年末から指揮活動を開始しヨーロッパ方面の演奏旅行に出かけた。その成功でふたたび創作力が湧いてくるのを感じたチャイコフスキーは、わずか3か月で第5番を完成した。

この交響曲の特徴は、共通メロディが全楽章に登場することだ。冒頭にクラリネットの不気味に奏されるメロディがそれで、これはチャイコフスキーが「運命、あるいは神の摂理の探求しがたい設計に対する、完全な服従」と作曲の構想をメモしているために「**運命の動機**」と呼ばれている。

第1楽章：序奏付きのソナタ形式の楽章。クラリネットの「運命の動機」が序奏部。テンポ・アップしてアレグロ主部に入ると、主要主題の「タッター」というリズムがあちこちにはめ込まれていく。

第2楽章：冒頭のホルン・ソロで有名な緩徐楽章。もうひとつの主題はオーボエで登場し、のちに弦楽器全員で歌われる。「運命の動機」は、暴力的に2回割り込んでくる。最後は穏やかに締めくられる。

第3楽章：チャイコフスキーが好んだワルツの楽章。中間部はスケルツォ的である。曲の終わり近く、優美なワルツの陰に「運命の動機」が不気味にエコーする。

第4楽章：凱旋的な楽章。「運命の動機」がはじめて弦楽器全員で、しかも「長調」で演奏される。急速なテンポによる主部は、ロシア民族舞踊を思わせる力強いもの。呈示部の終わりに、トランペットとトロンボーンで「運命の動機」が吹奏され、再現部の終わりにも管楽器全員で「運命の動機」が力奏され、いったん曲が終わったかのように途切れる（拍手厳禁!）。もう一度、「運命の動機」が長調で凱旋すると、最後に第1楽章の主題「タッター」も金管楽器で登場して、勝利のうちに締めくられる。

【作曲年代】1888年5月末か6月初め～8月26日 【初演】1888年11月17日、サンクトペテルブルクにて、作曲者本人の指揮による

【楽器編成】フルート3（3番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦楽5部

のもと・ゆきお（指揮・音楽学）／桐朋学園大学助教授を経て、玉川大学芸術学部教授。NHK「ららら♪クラシック」、Eテレ学校番組「おんがくブラボー」番組委員をはじめ、「又吉直樹のヘウレーカ!」や「世界で一番受けたい授業」ほかに出演。NHK-FMラジオ「オペラ・ファンタスティカ」レギュラー解説員。「天体と音楽」実行委員。

【特別寄稿】

ヒエロニムス・ボス『快樂の園』をよみとく

文=中野京子

ボスとレオナルド・ダ・ヴィンチが同時代人と知って驚く人は少なくないだろう。それほどにも絵画の方向性が異なっている。もともとアルプス以北の画家は細部へのこだわり感が強いが、ボスの徹底ぶりは突出している。ブリューゲルはもちろん、『ウォーリーを探せ』も、ボス無くしては生まれなかったろう。いくら見ても見飽きない、いくら考えても謎は解けない——それがボスの魅力である。



ヒエロニムス・ボス『最後の審判』(The Last Judgment, 1504-1508, ウィーン美術史美術館蔵)

11/1

11/3

11/4

異形のクリーチャー(生きもの)たちで溢れかえる三連祭壇画『快樂の園』は、ブルゴーニュ公国の貴族からの依頼で制作され、最終的にはスペイン王フェリペ二世のコレクションに収まった。王はボスの大ファンだった。

ボス作品をキリスト教に対する痛烈な批判と解釈する研究者もいるが、カトリックの守護者を任じたフェリペ二世が何点もボスを集めていたこと、また当時の宮廷財産目録では本作を『世界の多様性についての絵』と記してあったことから、ボスが揶揄したのは宗教というより人間の弱さ愚かさ可笑しさだと(正しく?)認識されていたことがわかる。おそらくそれゆえにこそ、時代も国も超えてボスは愛され続けているのだ。

『快樂の園』というタイトルは後世の命名ながら、絵のテーマをよくあらわしている。パネルごとに小タイトルで呼ぶこともあり、左パネルが「**地上の樂園**(ないし「エデンの園)」、中央パネルが「**快樂の園**」、右パネルが「**地獄**」。

エデンの園では神がアダムにイヴを与えるシーンが前景に大きく描かれる。こうして男女が世に誕生したため世界は墮落し、快樂に溺れるようになり、行き着く先は地獄だと、パネルの左から右へ、発端、展開、帰結が表現される。しかしもちろんボスが描くのと、どんな局面にあっても魑魅魍魎は跋扈する。画家の絵筆は変テコなものを創造する欲びに躍り、我々は驚異の別世界に目を瞠る。



ヒエロニムス・ボス『快樂の園』(The Garden of Delights, 1503-1504、プラド美術館蔵)

地上の樂園(左)、快樂の園(中央)、地獄(右)



左パネルから見てゆこう。前景左端でネコがネズミをくわえている。いや、あちらでもこちらでも弱肉強食のシーンが繰り返されていて、樂園とは名ばかりだ。



中景の池に奇妙な塔が建っていて、丸窓からフクロウの顔がのぞく。ボスはフクロウを登場させることが多く、「目撃者としての自画像」と言われている。ボスという通称が、故郷ス・ヘルトヘンボス(大公の森、ないしフクロウの森の意)から取られたからだ。

中央パネルにも、中景右と左に特大のフクロウが二羽、正面を向く。ボスは、性に突き動かされる人間の狂態を見て楽しむ我々鑑賞者の方を、大きな目でじっと観察しているのではあるまいか。



ボスの描く裸体は中世的表現をひきずって男女ともなよやかで、顔の表情も乏しい。おかげで淫靡さも残酷さもやわらげられ、安心して見ていられるのかもしれない。ここには白人だけではなく、黒人男女もかなり混じっている。また空飛ぶ魚、ロボット風の人魚、グリフィン、動物と植物の合体などのクリーチャーばかりか、建造物や山々まで奇怪だ。



画面中景では女性だけが水浴びする泉の周りを、さまざまな動物に騎乗した男たちがぐるぐる回っている。メスの関心を惹くため必死なオスの本能そのもの。



筆者がもっとも恐怖を感じるシーンは、画面左、中景。大きなシャボン玉の中に男女が寄り添い、その下に赤っぽい球根がある。球根の中から男が顔を出す、目の前には透明の筒があってそこにネズミがいる。これがオーウェル作『1984』を想起させるのだ。というより、オーウェルはボスのこの絵を見て、残酷さわまりないあの恐ろしい拷問シーンを思いついた

のではないかと、鳥肌が立ってしまった。

そんな次第で、亡者らが楽器刑に苛まれる地獄絵図に対しては、さほど怖さを感じない。

心に突き刺さるシーンは人それぞれ。

なかの・きょうこ／作家・ドイツ文学者。北海道生まれ。『怖い絵』シリーズ(角川文庫)『名画で読み解く ハブスブルク家 12の物語』『同 ブルボン王朝』『同 ロマノフ家』『同 イギリス王家』(すべて光文社新書)、『名画の謎』シリーズ(文藝文庫)『残酷な王と悲しみの王妃』(集英社文庫)など著書多数。最新刊『美貌のひと 2』(PHP新書)、『プロイセン王家 12の物語』(光文社文庫)『そして、すべては迷宮へ』(文春文庫)日本経済新聞をはじめ、新聞・雑誌に多数の連載を抱える。2017年「怖い絵」展では特別監修を務め、大人気を博す。2021年9月、「怖いクラシック コンサート」で東京フィルと共演。

ブログ「花つむひとの部屋」<http://blog.goo.ne.jp/hanatumi2006>

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続きの感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真=三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



ホール入退場時の密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いいたします

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者をご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回的手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。

客席内は十分な換気を行っております。

時差入退場にご協力ください。



The 76th National Arts Festival by Agency for Cultural Affairs presents (Nov. 1)

The 960th Suntory Subscription Concert

Mon. Nov. 1, 2021, 19:00 at Suntory Hall

The 961st Orchard Hall Subscription Concert

Wed. / Holiday Nov. 3, 2021, 15:00 at **Bunkamura** Orchard Hall

The 142nd Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu. Nov. 4, 2021, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

Andrea Battistoni, conductor

Tommaso Benciolini, flute*

Akihiro Miura, concertmaster

Battistoni:

A Garden of Delights

- A Flute Concerto after Bosch (2019) [Japan Premiere]* (ca. 35 min)

- I. Creation
- II. Eden
- III. Hell - Cadenza
- IV. The Garden

— intermission (ca. 15min) —

Tchaikovsky:

Symphony No. 5 in E minor, Op. 64 (ca. 45 min)

- I. Andante — Allegro con anima
- II. Andante cantabile, con alcuna licenza
- III. Valse. Allegro moderato
- IV. Finale. Andante maestoso — Allegro vivace

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Nov. 3)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter just before or in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

1
Nov

3
Nov

4
Nov

Artists Profile

Andrea Battistoni, conductor

Chief Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra



©Takafumi Ueno

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star with an international reputation as one of the most important conductors of his generation. He was appointed First Guest Conductor at the Teatro Carlo Felice in Genoa in 2013, and Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 2016.

In Tokyo he has proved to be a sensation with his charisma and sensitive musicality, conducting Tokyo Phil in operas such as Nabucco, Rigoletto, Madama Butterfly (Nikikai), and Aida (co-produced grand opera), as well as numerous symphonic works including Roman Trilogy, Pictures at an Exhibition, and Rite of Spring. The concert-style operas he has led - Turandot (2015), Iris (2016), and Mefistofele (2018) have secured his reputation as a leading light with critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Arena di Verona, Bayerische Staatsoper in Munich, Mariinsky Theater, and world-renowned orchestras such as the Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, and Israel Philharmonic.

His book, *Non è musica per vecchi* was published by Rizzoli 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.

In 2021, Andrea Battistoni, performing with Tokyo Phil, won the OPUS KLASSIK Prize 2021 in the 20th/21st Century symphonic category, one of the most prestigious classical awards in Europe, for their international disc, "Dvorak: Symphony No. 9, 'From the New World' & Works of Akira Ifukube."

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

1
Nov

3
Nov

4
Nov

Tommaso Benciolini, flute



Born in Bologna (Italy) in 1991, began studying flute at twelve and graduated at eighteen at Conservatory "E. F. Dall'Abaco" in Verona achieving the highest honors. After his diploma he won competition for the year's best graduated music students in Italy.

Winner of the 2017 New York Respighi Prize, Tommaso made his debut as a featured soloist with the Chamber Orchestra of New York on the prestigious world stage of Carnegie Hall in 2018.

His concert soloist career brought him to perform in many of the main world stages such as Berlin Philharmonie in Germany, Carnegie Hall in New York, Smetana Hall in Prague, Mozarteum Großer Saal in Salzburg, Novaya Opera in Moscow, Beijing University Hall and Guangzhou Opera House in Cina, Salle Cortot in Paris, Teatro La Fenice in Venice; performing as guest soloist with Berlin Symphony Orchestra, North Czech Philharmonic, Chamber Orchestra of New York, Camerata Vienna, Symphony Orchestra of the Ural State Mussorgsky Conservatoire, Thuringen Philharmonic Orchestra, I Solisti di Milano.

In 2021 Tommaso will make his debut as soloist in the main hall of Amsterdam's Concertgebouw, as well Tommaso's debut CD recording with Sony Classical label will be published worldwide.

1
Nov3
Nov4
Nov

Program Notes

Text by Robert Markow

1
Nov

3
Nov

4
Nov

Japan's oldest symphony orchestra, the Tokyo Philharmonic, currently enjoys as its Chief Conductor one of the youngest high-profile conductors on the international stage. Like Arturo Toscanini, Andrea Battistoni began his career as a cellist. He attended the conservatory in his natal city of Verona (barely more than a hundred kilometers from Toscanini's natal city of Parma), then went on to further studies in Germany. He began to study conducting and composition in 2004, and made his orchestral debut at the Michelangeli International Music Festival in Bergamo with the Orchestra di Padova e del Veneto in 2008 at the age of 21. Also that year he made his operatic debut, conducting *La bohème* in Basel. Less than four years later, he conducted *The Marriage of Figaro* at La Scala, making him at 24 the youngest conductor ever to mount the podium in that august house. Even Toscanini had to wait longer for that honor! Again like Toscanini, Battistoni harbors a deep affection for Italian opera, and has already led the Tokyo Philharmonic in no fewer than eight: *Nabucco*, *Rigoletto*, *Aida*, *Otello*, *Madama Butterfly*, *Turandot*, *Mefistofele*, and Mascagni's *Iris*. His interests go well beyond the core repertory to include operas like Cimarosa's *Il matrimonio segreto*, Rossini's *Il viaggio a Reims*, and Verdi's *Attila* and *Stiffelio*.

Andrea Battistoni was born to a pianist mother and an opera-loving father. He began piano and cello lessons at an early age, but initially he had no great love for music. It was only when he began playing cello in a school orchestra as a teenager that his eyes and ears were opened to the joy of playing music in a communal setting. "When I started to play with other people, I realized that this was the purpose of my long study up till then. I understood why I had been studying, that it was not to play alone, but to play with other people! I learned that an orchestra wasn't just a lot of people playing music together; they could turn into a musical instrument that could

express anything ... any feelings, senses or colors. Later it occurred to me that I would like to conduct, because I love orchestras. As a conductor I could ‘play’ the whole orchestra. Cellists can only play the cello.”

Battistoni believes strongly that classical music should be enjoyed by all, and has undertaken various projects to fulfill his mission. Among these is a book published in 2012 by Rizzoli, available in Italian as *Non è musica per vecchia* (Music is not for old people) and in Japanese translation as 「マエストロ・バッティストーニのぼくたちのクラシック音楽」.

Not many high-profile conductors these days are also composers of note, but Andrea Battistoni is one of them, one of a slender list that also includes Esa-Pekka Salonen, John Adams, Thomas Adès, and John Williams. His catalogue of works, which he has been compiling over the past decade, includes music for the theater (the tragic single act *Diotima and the Flute Player* and the musical comedy *Gents*), orchestral works like the *Tarot Symphony* and a Concertino for cello, and chamber music, most of it including woodwind instruments such as the Variations on “Merry Gentlemen” for flute, cello, and piano.

Battistoni’s latest orchestral composition is *A Garden of Delights*, subtitled “**A Flute Concerto after Bosch.**” The world premiere was given on March 8, 2020 by the Berlin Symphony Orchestra conducted by David Robert Coleman, with soloist Tommaso Beniciolini. The composer thereafter slightly revised the score, which is the version we hear at these concerts by the TPO. These mark not only the Japanese premiere of this score but the second performance anywhere, and the first with the composer conducting. He describes the concerto as follows:

1
Nov3
Nov4
Nov

Battistoni:
A Garden of Delights
- A Flute Concerto after Bosch (2019)

Text by Andrea Battistoni

The Garden of Delights – “A Flute Concerto after Bosch” was born from the request of Tommaso Benciolini to write a concerto for his instrument. Tommaso has always been a strong supporter and ideal performer of my music, and I tried my best to please his expectations by composing a work tailored to his abilities and talents. The concerto takes its inspiration from what is probably my favorite painting of all time, the mysterious and sublime *Triptych of Earthly Delights* by the Flemish painter Hieronymus Bosch.

The four images (the first being the painting on the back of the outer altar pieces, visible only when they are closed) stimulated my imagination with their otherworldly atmospheres, grotesque imagination, Medieval symbolism, and wild colors, giving birth to a work that has strong roots in the Romantic symphonic poem as well as in flute concertos of the twentieth century.

The work opens with the depiction of “**Creation**,” the subject of the closed altar piece, with a reference to Bosch as a creator himself. The first four notes of the solo flute are the musical rendition of his name in musical notation B-S-C-H. [In German orthography, “B” is B-flat; “S” is E-flat, or Es; “H” is B-natural.] The movement tries to evoke the misty, dark colors of Earth and Flora emerging from the waters.

This suspended tension leads without a break to the depiction of “**Eden**,” the subject of the left panel painting of the altar piece. Flourishing nature and exotic bird calls are depicted by the whirlwind of harp and woodwinds, while the solo flute writing is erratic and alien, depicting the lost world of primeval humanity. This manner of accompanied improvisation is briefly interrupted by a solemn chorale representing God’s presence at the center

1
Nov

3
Nov

4
Nov



Triptych of Earthly Delights, by Hieronymus Bosch (c1450-1516)

of the image, soon to disappear in the multitude of bird signals and cries. The Bosch motif returns in the closing bars, merging again the divine and the artistic creator in a single, symbolic figure.

The third movement, “**Hell**,” is the musical depiction of the most iconic image of the set: the horrors of the Underworld, where creepy imagination and a certain pleasure for uncanny humor are not easily distinguishable. The ringing bell calls the fire alarm, driving soloist and orchestra in a disturbing carnival of grotesque effects. Strings crawl about like the little demonic creatures of Bosch’s imagination, while the flute shrieks like a monstrous bat. The blasting of a furnace hammer is challenged by the bumping of a satanic march, the music of which is derived from the musical notes Bosch has unmercifully tattooed on the posterior of one of the damned.



The back of the outer altar pieces of the *Triptych of Earthly Delights*

This wild music rises to a hectic climax, leaving the solo flute to reflect on the most significant themes of the previous movements in the cadenza.

1
Nov

3
Nov

4
Nov

The last movement, “**The Garden**,” tries to calm the tensions aroused in the previous ones. It is articulated as a sort of rondo, a circular musical form in which a dancing, festive theme evokes the exceptional freedom and unruliness that seems to triumph in the larger of Bosch’s boards. A round dance is indeed at the core of this painting, and the music encourages orchestra and audience alike to be moved by the carefree joy that these erotic images exude.

Toward the end, as the excitement reaches its climax, the dancing fades and the music slowly bids farewell with a sense of longing and melancholy to the enchanted world we have been visiting. The listener is left to wonder if he or she will ever experience the spontaneous, blessed state that Bosch’s figures seem so much to enjoy in this unique mosaic of human figures and unknown stories.

ANDREA BATTISTONI: Born in Verona, July 2, 1987 ; now living in Verona

Work composed: 2019 World premiere: March 8, 2020 by the Berlin Symphony Orchestra conducted by David Robert Coleman, with soloist Tommaso Beniciolini

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, suspended cymbal, anvil, tam-tam, glockenspiel, tubular bell), timpani, harp, strings, solo flute

Tchaikovsky: Symphony No. 5 in E minor, Op. 64

Text by Robert Markow

Tchaikovsky conducted the premiere of his Fifth Symphony in St. Petersburg on November 17, 1888. “Having played my symphony twice in St. Petersburg and once in Prague,” he wrote to his friend Nadezhda von Meck, “I have come to the conclusion that it is a failure. There is something repellent in it, some insincerity of fabrication that the audience instinctively recognizes. ... The symphony will never please the public.” Thus, strangely

enough, did Tchaikovsky initially regard a work that has become one of the pillars of the orchestral repertory, a symphony that may well rank as one of the dozen most frequently performed around the world.

The composer's low opinion probably stemmed from his own poor conducting skills, compounded by a deep-seated insecurity and generally melancholic disposition. The critics too had little good to say about it, though audiences liked it. Tchaikovsky eventually changed his mind and agreed with the public, but this was far from a unique occurrence in the composer's life. Critic Philip Hale put it in these terms: "The pathological and the musical Tchaikovsky are two different people. The first was mentally sick, pitiably feeble. The second was bold, sure-handed, thoroughgoing, increasingly masterful, eminently sane."

The symphony is structured around a motto, or motif, that can safely be regarded as representing Fate. It is heard in the symphony's opening bars in the somber tones of low clarinets. To an even greater extent than in the Fourth Symphony, Fate pervades the work. Twice the motif abrasively intrudes in the slow movement; it makes a shadowy, menacing appearance near the end of the Waltz; and it serves as the material that introduces and closes the Finale in a mood of exultant joy.

The slow Introduction – darkly brooding, uneasy, with a sense of foreboding – immediately demonstrates Tchaikovsky's superb sense of orchestral color. Two clarinets in unison, in their low range, play the melody in a single continuous line, supported by a string section whose constituency is almost constantly changing. The main *Allegro con anima* section is laid out in traditional sonata form, with a lilting first subject announced by clarinet and bassoon in octaves, and a passionately lyrical second subject set to a syncopated rhythmic pattern.

The slow movement features one of the great glories of the solo horn repertory – that long, long, first theme of infinite yearning and nostalgia. The theme is marked *dolce con molto espressione* (sweetly, with great expression). This alone would qualify the movement as a great love song,

1
Nov3
Nov4
Nov

but there is more to come. Violins and violas in octaves later present a theme of melancholic beauty that eventually, near the end of the movement, works itself into such a passionate frenzy that Tchaikovsky feels the need to use, for the first and only time in the symphony, the performance direction *ffff*.

The third movement is a waltz based on a song Tchaikovsky heard sung by a boy in the streets of Florence. The central trio section recalls the world of Mendelssohnian deftness and elfin enchantment, a reminder of just how much respect Tchaikovsky accorded his predecessor.

Music theorists have long argued that the “victory” depicted in the Finale is one too quickly and too easily won to be convincing from the standpoint of musical argument. This has done nothing to prevent countless listeners from responding to the Fate motif in the opening bars – now all pomp and majesty – with a warm glow in their hearts, and to the thrilling *Allegro vivace* that follows with the sensation of a visceral thrill akin to a rollercoaster ride. In the last pages, we hear one final, expansive proclamation of the Fate motif blazing forth triumphantly, and the symphony ends in splendid colors and visions of glory.

PIOTR ILYICH TCHAIKOVSKY: Born in Votkinsk, May 7, 1840; died in St. Petersburg, November 6, 1893

Work composed: 1888 **World premiere:** November 17, 1888 in St. Petersburg conducted by the composer

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Please cooperate with staggered entry and exit.

東京フィルだより 2022年1月の定期演奏会

<シーズンオープニング>

第962回サントリー定期シリーズ
1月21日(金)19:00
サントリーホール

第963回オーチャード定期演奏会
1月23日(日)15:00
Bunkamura オーチャードホール

第143回東京オペラシティ定期シリーズ
1月25日(火)19:00
東京オペラシティ コンサートホール

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

アルト：中島郁子

女声合唱：新国立劇場合唱団
(合唱指揮：富平恭平)

児童合唱：東京少年少女合唱隊
(児童合唱指揮：長谷川久恵)

マーラー／交響曲第3番 二短調

※本公演に休憩はありません

【料金】

定期会員券(8回券)

SS¥96,000 S¥56,000 A¥47,600 B¥39,200 C¥30,800

1回券

SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※2022シーズンラインナップ全体の情報はp28をご参照ください。2021シーズン定期会員の皆様には「継続のご案内」をお送りしております。

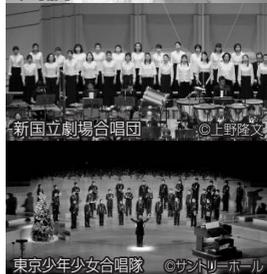
※1回券は定期会員券の販売終了後、残席がある場合にのみ販売いたします。

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522(平日10時～18時/土日祝休)

<https://www.tpo.or.jp/>(24時間受付・座席選択可)



News & Information

バッティストーニ&東京フィル、 2021年OPUS KLASSIK 20/21世紀部門受賞

首席指揮者アンドレア・バッティストーニと東京フィルのコンビが日本コロムビア株式会社よりリリースしてきた「BEYOND THE STANDARD」全5タイトルのうち、第1弾『ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」/伊福部昭:シンフォニア・タブカーラ、ゴジラ』の欧米盤(Denon/MDG より2020年7月発売)が、ドイツで最も権威のあるクラシック音楽の録音賞であるOPUS KLASSIK賞を20/21世紀部門で受賞しました。

国内盤:2018年4月日本コロムビア株式会社より発売
アンドレア・バッティストーニ指揮 / 東京フィルハーモニー交響楽団『ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」/伊福部昭:シンフォニア・タブカーラ、ゴジラ』[COCQ-85414]



【お正月恒例!】ニューイヤーコンサート2022

日時 1月2日(日)、1月3日(月) 15:00開演
会場 Bunkamuraオーチャードホール
出演 指揮:角田鋼亮
ゲスト:1/2公演=角野隼斗(ピアノ)、
1/3公演=岡本誠司(ヴァイオリン)
司会:朝岡聡

曲目 ラヴェル/ボレロ、
お楽しみ福袋プログラム ほか

料金 S席¥6,600 A席¥5,500
B席¥3,500(税込・全席指定)

問合せ 東京フィルチケットサービス03-5353-9522(平日10時~18時・土日祝休)
東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



©Hikaru Hoshi

©S. Ohsugi

NHK BS1「必ず よみがえる~魂のオーケストラ 1年半の闘い~」 放送のご報告と御礼

2020年からのコロナ禍における東京フィルの取り組みが、9月15日、23日(再放送)の2回にわたりNHK BS1スペシャル「必ず よみがえる~魂のオーケストラ 1年半の闘い~」として放送され、多くのお客様から反響をいただきました。お客様、日頃ご支援くださっている皆様、そして関係各位のご協力とご支援に、御礼申し上げます。





指揮：
チョン・ミョンファン
名誉音楽監督
アルト：中島郁子
女声合唱：新国立劇場合唱団
児童合唱：東京少年少女合唱隊

指揮：
井上道義
ピアノ：大井浩明*

指揮：
ミハイル・プレトニョフ
特別客演指揮者

指揮：
チョン・ミョンファン
名誉音楽監督

シーズンオープニング

エルガー
序曲『南国にて』
クセナキス
ケクロプス*
(クセナキス生誕100年) 日本初演

スメタナ
連作
交響詩『わが祖国』
(全曲)

フォーレ
組曲『ペレアスとメリザンド』
ラヴェル
『ダフニスとクロエ』第2組曲
ラヴェル
管弦楽のための舞踏詩『ラ・ヴァルス』
ドビュッシー
交響詩『海』
(管弦楽のための3つの交響的素描)

マーラー
交響曲第3番
ニ短調

ショスタコーヴィチ
交響曲第1番
ヘ短調

オーチャード定期演奏会

開演15:00／開場14:15

Bunkamura オーチャードホール

第963回 **1.23** (日)

第965回 **2.27** (日)

第967回 **3.13** (日)

第969回 **5.22** (日)

東京オペラシティ定期シリーズ

開演19:00／開場18:15

東京オペラシティコンサートホール

第143回 **1.25** (火)

第144回 **2.24** (木)

第145回 **3.11** (金)

第146回 **5.20** (金)

サントリー定期シリーズ

開演19:00／開場18:15

サントリーホール

第962回 **1.21** (金)

第964回 **2.25** (金)

第966回 **3.10** (木)

第968回 **5.18** (水)

発表!

2022シーズン **定期演奏会**



2021年9月定期演奏会～ブラームス交響曲の全て～ ©K.Miura



指揮：
ミハイル・プレトニョフ
特別客演指揮者

指揮：
出口大地
2021年ハチヤットウリアン国際コンクール第1位
ヴァイオリン：木嶋真優*

指揮：
アンドレア・バッティストーニ
首席指揮者

指揮：
チョン・ミョンファン
名誉音楽監督
※出演者調整中

シチェドリ
カルメン組曲
(シチェドリン生誕90年)

チャイコフスキー
『白鳥の湖』より
(プレトニョフによる特別編集)

ハチャトゥリアン
バレエ音楽『ガイース』より
ハチャトゥリアン
ヴァイオリン協奏曲 ニ短調*

ハチャトゥリアン
交響曲第2番
『鐘』ホ短調

リスト(バッティストーニ編)
『巡礼の年』第2年「イタリア」より第7曲
ダンテを読んで—ソナタ風幻想曲

マーラー
交響曲第5番
嬰ハ短調

オペラ演奏会形式

ヴェルディ
歌劇『ファルスタッフ』

第971回 **6.12** (日)

第972回 **7.10** (日)

第975回 **9.19** (月・祝)

第977回 **10.23** (日)

第147回 **6.9** (木)

第148回 **7.7** (木)

第149回 **9.15** (木)

第150回 **10.21** (金)

第970回 **6.8** (水)

第973回 **7.12** (火)

第974回 **9.16** (金)

第976回 **10.20** (木)

かけがえのないあなたの指定席を 東京フィルハーモニー交響楽団

【定期会員・特典】

- 特典1 **専用指定席** シーズン通しで同じお席で聴ける専用指定席券をまとめて確保いたします。
- 特典2 **特別価格** 定期会員券は、1回券を同じ回数分購入するよりもお得な価格でご鑑賞いただけます。
- 特典3 **最優先販売** 『第九』等、東京フィル主催の人気公演のチケットを最優先でお求めいただけます。
- 特典4 **会場のお振替** 同月の他会場定期演奏会へのお振替として、会員様間のチケット交換をおとりまめいたします(一部対象外あり)。
- 特典5 **各種イベントご招待** 公開リハーサル等の特別なイベントにご招待いたします(状況により開催をとりやめる場合もございます)。
- 特典6 **翌年シーズンへの最優先継続権** 翌年シーズンも同じお席でお楽しみいただけるよう、お席を最優先で確保いたします。
- 特典7 **チケット割引** 東京フィル主催公演チケットを定価の10%割引でお求めいただけます(一部対象外あり)。

定期演奏会がもっと楽しくなる! **会員様限定 オンライン企画***を計画中!

*メールアドレスのご登録が必須となります。定期会員ご継続後、チケットともにご登録に関するご案内をお送りいたします。

定期会員券(新規)一般発売日:12月2日(木)10:00

主催:公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 協力:Bunkamura(オーチャード定期演奏会)

▶お申込み・お問い合わせ
東京フィル
チケットサービス

TEL **03-5353-9522** WEB <https://www.tpo.or.jp/>

営業時間:平日10時~18時 定休日:土日祝日、年末年始
※チケット発売初日の土日祝のみ10時~16時営業

東京フィル 検索

Photo Reports 2021年9月の演奏会より

9月の定期演奏会は名誉音楽監督 チョン・ミョンフンが再び来日。ブラームスの交響曲全曲演奏プログラム《ブラームス 交響曲の全て》より「第3番」「第4番」を演奏。3公演とも多くのお客様にお越しいただき、熱烈なカーテンコールとともに交響曲ツィクルスが幕を下ろしました。同月、NHK BS1「BS1スペシャル」で、2020年からの東京フィルの取り組みとマエストロ チョン・ミョンフンとの関係が特集され、2回にわたり放送されました。

人気シリーズ「休日／渋谷の午後のコンサート」では、マエストロ小林研一郎が登場。〈コバケンのチャイコフスキークライマックス!!〉のタイトルで、チャイコフスキーの華麗かつ憂愁の響きをお届けしました。

写真=上野隆文(9/16)／三浦興一(9/17, 19)／寺司正彦(9/7)

9月定期演奏会(9/16、17、19)

指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)
コンサートマスター：近藤薫

ー ブラームス 交響曲の全て ー

ブラームス／交響曲第3番 へ長調 Op. 90

ブラームス／交響曲第4番 ホ短調 Op. 98



東京オペラシティコンサートホールでのリハーサルより



メンバー同士もアンサンブルの打合せを重ねます



リハーサル初日、マエストロから20年前に東京フィルに贈られた「スコープ」があらためて披露されました



スコープに込められた「一緒に深いところにある音を掘り起こそう」という言葉とともに、公演会場ロビーでも展示しました



マエストロの指揮から紡ぎ出されるブラームスの響きは客席だけでなくオーケストラをも魅了



マエストロは今回も厳しい防疫措置にもとづいて入国。東京オペラシティ定期シリーズ、サントリー定期シリーズでは客席の最前列数列を開けることが求められました。お客様のご理解とご協力に篤く御礼申し上げます



最終日、オーチャード定期演奏会にて。客席と舞台が一体となり、終演後も長く熱烈なカーテンコールが繰り返されました

第89回 休日の午後のコンサート(9/5)

第11回 渋谷の午後のコンサート(9/7)

〈コバケンのチャイコフスキークライマックス!!〉

チャイコフスキー／

歌劇『エフゲニー・オネーギン』よりポロネーズ

弦楽セレナードより第1楽章

バレエ組曲『くるみ割り人形』より

「行進曲～トレパック～花のワルツ」(9/5)

スラヴ行進曲(9/7)

交響曲第6番『悲愴』より第3楽章

交響曲第5番より第2楽章

交響曲第4番より第4楽章

指揮とお話：小林研一郎

コンサートマスター：依田真直



渋谷の午後のコンサート(9/7)より。「チャイコフスキーとちょうど100歳違い」というマエストロ・コバケンの、想いのこもったチャイコフスキーをお届けしました

信時 潔 作 交声曲『海道東征』の感動を再び

—東京フィルに繋がる「人の縁」数々—

東京フィル評議員／元東京電力株式会社取締役社長
南 直哉



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第6回は、東京電力株式会社にて取締役社長を務められ、2001年からは東京フィルの評議員としてご助力くださっている南 直哉様にご寄稿いただきました。

私は関西の僻村^{へきそん}で次男に生まれ開戦翌年に当時の国民学校に入学、新制高校卒業までの18年間で故郷で過ごしたが、その間数多くの「人の縁と幸運」に恵まれて東京の大学で学び職を得てそのまま東京近辺に腰を据えている八十路半ば過ぎの老耄^{ろうもう}である。

私が本格的なクラシック音楽に接したのは、大学卒業後東京電力に入社（これも“人の縁”のお陰）して新入社員初職場の神奈川支店（横浜市）に配属され、『彼』（一年先輩だが都内事業所一年の後二つ目の事業所へ私と同じ日付で転勤）と仕事の席を隣り合わせたお陰である。彼とはお互い非常に気が通じ合い平日は勿論週末・休日には彼の自宅（東京都）に入り浸るほどお世話になった。彼の個室（大きな洋間）には外国製のグランドピアノがありベートーヴェンはじめピアノ・ソナタ等の名曲の数々を堪能した。幼少の頃から専門家のレッスンを受けておられるプロはだしの腕前だった。そしてもう一つ特筆すべきなのは、彼のレコードの山から^{のぶとき きよし}信時 潔の大傑作^{かいどうとうせい}『海道東征』の古いSP盤を見付出したことである。初めて聴く約一時間の交声曲に感動した。このレコードは皇紀2600年奉祝演奏会の実況録音盤で、彼が児童合唱団の一員として参加した記念

盤とのこと。後日にやや歪み波打っていた何枚かのSP盤をテープに複写し届けて下さったので何回感動を繰り返したのか…懐かしい思い出。その『彼』もつい先年彼岸へ…。

この曲はその出自もあって戦後長く封印されていたが、2015年に東京藝術大学が「信時潔 没後50周年記念演奏会」を新装なった同大学奏楽堂で同大学オーケストラ・合唱団等の出演で行ないライブ録音盤も販売されている。この翌年と記憶するが、大阪フィルが大阪で全曲演奏会（最後に“海ゆかば”合唱付）があり、その翌年（2017年）4月には東京フィルに栗友会・杉並児童各合唱団が加わって東京芸術劇場で産経新聞社主催のもとに演奏された。（この時も“海ゆかば”付）。私はこの三つの演奏会とも友人家族を誘って拝聴している。

残念ながらその後暫く演奏会が途絶えている。日本では毎年末に“第九”演奏会が全国各地で開催されるのが常であるが、この交声曲『海道東征』も毎年は無理としても、せめて日本のどこかで定例的に楽しめたらと思う。主催者・後援者の協力を得て是非実現して欲しいと願っている。

因みに私と東京フィルの関係が生じたのも東京フィル前理事長の大賀典雄氏が確か経団連副会長の頃、即ち世紀交代の頃に、車中から私に東京フィルを手伝って欲しい旨の電話を下さったからである。「人の縁」の有難さに感謝している。



私は東電在職中「TEPCO 一万人コンサート」を毎年主催するのも楽しみだった。5,000人の聴衆の前で受持区域内各地域を代表するママさんコーラス等の出演者が5,000人（合わせて一万人コンサート。会場は武道館に定着）前半期はボニージャックス西脇久夫さん、後半期はなかにし礼さんが「世界劇」と称し主導されたが、そのお二人も今は亡^ない。18年間続いたが東日本大震災に伴う原子力事故後は中断したままである。各地域のママさんコーラスの晴れの場最終本舞台を復活提供するためにも、新たな主催者が現れて欲しいと切望している。

南直哉（みなみ・のぶや）

1935年三重県伊賀上野生まれ。1958年東京大学法学部卒業。東京電力株式会社入社。1999年取締役社長。2002年退任。2004年より一般財団法人地球産業文化研究所理事長（現任）。2001（平成13）年より公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団評議員。

ご支援の御礼とお願い

コロナ禍において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、チケット払戻しのご辞退やご寄附等、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、1年半が経った今も、社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、深刻な打撃を受けています。2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。現在も公演の中止や延期、チケット販売停止が頻発しています。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（41ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業」/ 「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは42ページをご参照ください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョンミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)
©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。ご招待をご希望の方は、あらかじめ東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)にご連絡いただき、公演当日、開演の60分前以降に公演会場の招待受付にお越しください。

紅葉の候、時下いっそうご壮健のこととお喜び申し上げます。
 今月も、皆様のあたたかなご支援に、厚く御礼申し上げます。
 希望に満ちた日本の未来を創るべく、楽団員とともども、
 皆様のご期待にお応えできるよう努めてまいります。
 引き続き当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、
 改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)IHI	代表取締役社長 井手 博	ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 松本 浩司
(医)相澤内科医院	理事長 相澤 研一	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎
アイ・システム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	(株)オーディオテクニカ	代表取締役社長 松下 和雄
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	(公財)オリックス宮内財団	代表理事 宮内 義彦
(株)インターテキスト	代表取締役 海野 裕	花王(株)	代表取締役 社長執行役員 長谷部 佳宏

カシオ計算機(株)	代表取締役 社長 CEO	櫻尾 和宏	トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
キヤノン(株)	代表取締役会長兼社長 CEO	御手洗 富士夫	DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株)グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋	(株)ニチケアパレス	代表取締役社長	秋山 幸男
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩	(株)ニフコ	代表取締役社長	柴尾 雅春
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史	日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之	(株)パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛	富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准	(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株)滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳	(株)三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己	三菱商事(株)	代表取締役 社長	垣内 威彦
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎	三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉	(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
ソニーグループ(株)	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎	ミライラボバイオサイエンス(株)	代表取締役	田中 めぐみ
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男	(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
(株)ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長CEO	村松 俊亮	森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎	ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
都築学園グループ	総長	都築 仁子	(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫	ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之	楽天グループ(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣	(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次
トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一			

後援会員

(株)アグレックス	代表取締役社長	畷森 達朗	(株)トレミール	代表取締役	茶谷 幸司
欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄	(株)日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美	富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹	本田技研工業(株)	取締役 代表執行役社長	三部 敏宏
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎	三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
(宗)東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽	三菱電機(株)	執行役社長	漆岡 啓
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹			

東京フィル 賛助会 会員募集中

2021年3月に東京フィルハーモニー交響楽団は創立110年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは一年の始まりである1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の新しい暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化するグローバル社会において心の豊かさを育み、文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

種別	年会費1口
オフィシャル・サプライヤー	詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員 50万円
	後援会員 30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ 100万円
	フィルハーモニー 50万円
	シンフォニー 30万円
	コンチェルト 10万円
	ラプソディ 5万円
	インテルメッツォ 3万円
	プレリュード 1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部（担当：星野^{かの}麗文）

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」として活用させていただいてまいりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、運用を見合わせておりましたが、2021年1月定期よりご案内を再開いたしました。お手元にご来場いただけなかった公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

9月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。
心より御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

岩田邦彦、大槻弥栄子 他(匿名希望2名)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベントなどで活用いただけるオンラインの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルバスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行き、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otake

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

柄本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroschi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	岩倉 宗二郎 Sojiro Iwakura	ステージマネージャー Stage Managers
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri	クラリネット Clarinets	田場 英子 Eiko Taba	平田 慎 Shin Hirata	稲岡 宏司 Hirosaki Naoka
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	チヨ・スンホ◎ Sung-ho Cho	塚田 聡 Satoshi Tsukada	山内 正博 Masahiro Yamauchi	大田 淳志 Atsushi Ota
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	吉江 賢太郎 Kentaro Yoshie	古谷 寛 Hiroschi Furuya
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	チューバ Tubas	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	荻野 晋 Shin Ogino	
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	井村 裕美 Hiromi Imura	重井 吉彦 Yoshihiko Shigei	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobarai	桔川 由美 Yumi Kikkawa	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	名雪 裕伸 Hironobu Nayuki	森 純一 Junichi Mori	前田 寛人 Hirohito Maeda	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
				船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦 大賀 昭雄	岩崎 守康 山野 政彦	伊東 信一郎 海老澤 敏
副理事長 黒柳 徹子	大塚 雄二郎 小山田 隆		佐治 信忠 鈴木 勲
専務理事 石丸 恭一	篠澤 恭助 田沼 千秋 寺田 琢		鈴木 啓介 瀬谷 博道 日枝 久
常務理事 工藤 真実	遠山 敦子 野本 弘文 韓 昌祐 平井 康文 宮内 義彦		南 直哉

事務局

楽団長 石丸 恭一	公演事業部 市川 悠一 岩崎 井織 大久保 里香 大谷 絵梨奈 佐藤 若菜 村尾 真希子	ステージマネージャー 稲岡 宏司 大田 淳志 古谷 寛	ライブラリアン 武田 基樹	広報渉外部 伊藤 唯 鹿又 紀乃 千木 加寿子 二木 憲史 星野 友子 松井 ひさえ 安田 ひとみ	総務・経理 川原 明夫 鈴木 美絵
--------------	--	--------------------------------------	------------------	--	-------------------------

団友

安藤 栄作 池田 敏美 糸井 正博 今井 彰 井料 和彦 岩崎 龍彦 植木 佳奈 上野 眞行 生方 正好 大兼久 輝宴 大和田 皓	岡部 純 小樽 敦子 小山 智子 甲斐沢 俊昭 加藤 明広 加藤 博文 金崎 真由美 川人 洋二 木村 友博 黒川 正三 河野 啓子	近藤 勉 今野 芳雄 齊藤 匠 坂口 和子 嵯峨 正雄 嵯峨 美穂子 桜木 弘子 笹 翠 佐々木 等 佐野 恭一 清水 真佐子	瀬尾 勝保 高岩 紀子 高野 和彦 高村 千代子 竹林 良 竹林 陽子 田中 千枝 田村 武雄 津田 好美 戸坂 恭毅 長池 陽次郎	長岡 慎 長倉 穰司 新田 清枝 新田 伸雄 二宮 純 野仲 啓之助 畑中 和子 波名城 昌子 福村 忠雄 藤原 勲 古野 淳	細川 克己 細洞 寛 本田 詩子 松澤 久美子 湊 貞男 宮原 真弓 山屋 房子 吉田 啓義 米倉 浩喜 脇屋 俊介
---	--	---	--	---	---

〈発行日〉 2021(令和3)年11月1日(発行人)石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉県 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉 ハラダチエ 〈編集協力〉 ひとま舎

〈印刷〉 歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

新しい景色をみたい

In Search of a New Scene